



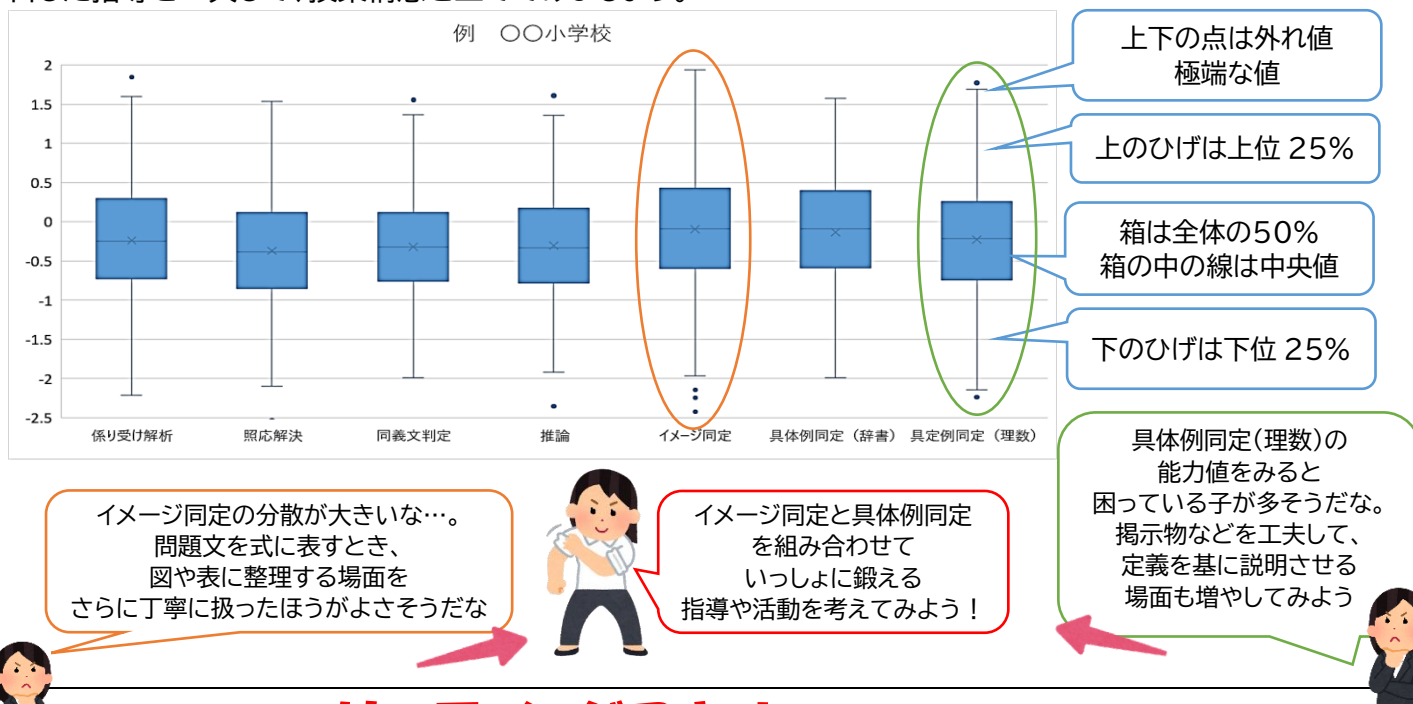
# 燕市「読解力」育成プロジェクト通信

## リーディングスキルテストの結果を活用して授業づくりを！

### 学級・学年・学校の傾向を分析してみましょう

下の図のように、子どもたちの結果を箱ひげ図等に整理すると、能力値の分散の様子がよく分かり、全体の傾向をつかみやすくなります。（箱ひげ図はエクセルのグラフ機能で簡単に作成できます。）

クラス子どもたちに身に付けさせたいリーディングスキルは何かをつかみ、そのリーディングスキルに着目した指導を工夫して、授業構想を立ててみましょう。



## 復習 リーディングスキル 6 分野(7 項目)の視点

①	<b>係り受け解析</b> ・文の構造を正しく把握する。読解力の最も基礎となる。 指導の例:主語と述語 修飾語と被修飾語を線でつなぐ。
②	<b>照応解決</b> ・代名詞が何を指しているか正しく認識する。 指導の例:指示語が何を示しているのか確認する。 主語や目的語が省略されている文章で、意図的に主語や目的語を確認する。
③	<b>同義文判定</b> ・2つの文を比較し、それらが同じ意味を表しているかどうか分かる。 指導の例:主語を変えて意味が変わらないように言い換える。
④	<b>推論</b> ・既存の知識と新しく得られた知識から論理的に判断する。 指導の例:「～だから、～です。」のように根拠を基に説明をさせる。
⑤	<b>イメージ同定</b> ・文章とイメージ=非言語情報(図表、グラフ、式など)を対応づける。 指導の例:イメージ=非言語情報(図表、グラフ、式等)から読み取れることを説明させる。 文章で書かれていることを非言語情報(図表、グラフ、式等)で表させる。
⑥	<b>具体例同定</b> ・辞書…辞書の定義を用いて新しい語彙とその用法を獲得できる。 ・理数…理数的な定義を理解し、その用法を獲得できる。 指導の例:定義等を教科書の表現どおりに板書する。 新しく学んだ言葉を正しく使って文章を書かせる。

# リーディングスキルテストの結果と普段の成績を比較してみましょう

## 普段の成績

普段の成績は良いのに RST の結果が悪い。  
暗記学習をしているかも。  
将来、学習に対して課題が生じる可能性がある。



普段の成績がよく、RST の結果もよければまず OK。  
さらに伸ばすことを考える。



## RST の結果

普段の成績が良くなく、RST の結果もよくない場合は、リーディングスキルの不足が成績不振の一つの要因になっているかもしれない。



普段の成績は悪いのに RST の結果が良い。モチベーションの問題や、学校生活・家庭生活に何か問題を抱えているのかもしれない。



## さあ3学期のスタート リーディングスキルに着目して授業改革！ 授業準備、授業づくりのポイント再チェック

### 1 授業準備 RSTの視点で教科書を読んでおきましょう＝「解像度高く教科書を読む」

- 一文が長く、文の構造を捉えにくい文章を明らかにしておく。
- 子供たちが教科書の文章を音読する際に、つまづく語句はないかを確認する。
- 省略されている主語や目的語を明らかにしておく。
- 教科書のどの文章が掲載されている図やグラフ等と対応しているか明らかにしておく。



### 2 定義を大切に！同義で言いかえると？具体例は？

- 定義や、本時で押さえたい言葉や表現が出てきたら、同義で言い換えるとどんな表現になるか？具体例は何か？を考えておく。
- 定義を基に具体例を考える「具体例“生成”」の活動や、同義となるように言い換える「同義文“生成”」の活動を設定する。
- 教科書の定義文は、教師が解釈して板書するのではなく、教科書のとおりに板書する。

### 3 どの子にも伝わる、理解できる表現を心掛ける

- 「きちんと」、「ちゃんと」、「工夫して」等の表現は避け、意図や目標を明確に言語化する。

### 4 教科書を音読させる(その言葉を知っているか？読めるか？使えるか？)

- 教科書の音読に取り組む。音読させることで、その言葉の意味を理解できているかを把握できる。

### 5 各教科で文章の読み方を指導する(国語だけではなく、どの教科でも)

- 教科書を正しく読むための方略(例:文章に線を引くなど)を子供たちに伝える。
- 教科書を正しく読むための方略を使うための意図的な練習の機会を設定する。

### 6 意図的にアウトプットの機会を設定。誤読していないかを確認。(わかったつもり…にさせていないか？)

- 「楽しかったです。」「すごいと思いました。」など、あいまいな表現ではなく、具体的に表現させる。
- 根拠を基に理由を説明させたり、本当にそう言えるのかという妥当性を判断させたりする。
- 教科書の文章を図表等に表現させる。

## この授業で何を学ばせたいのかを明確にすること

普遍的により授業はない

全ての児童生徒が参加できる授業を設計する

クラスの全員が「今日は〇〇〇〇を勉強したな」と記憶に残る授業を設計する

(R4.11.22 全体研修会 新井紀子氏 講演会より)